

令和4年 第2回定例会

# 一般質問文書表

稲城市議会

通告番号	氏名	質問項目 (18人、66項目)	備考
1	北浜 けんいち	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 稲城市の在宅高齢者の見守りについて</li> <li>2 稲城市産農産物利用飲食店等応援プロジェクトについて</li> </ul>	
2	山岸 太一	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 負担増と給付制限をやめ、誰もが利用できる介護保険制度に向けて</li> <li>2 平尾団地再生の住民負担軽減のための支援について</li> <li>3 小中学校の保護者負担の無償化により、安心して子どもを育てられる環境づくりについて</li> <li>4 社会インフラとして地域の買い物拠点を守っていくことについて</li> </ul>	
3	川村 あや	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 市民サービスの向上「書かない窓口」導入について</li> <li>2 市内中学校での部活動指導員について</li> <li>3 だれもが楽しめる公園づくりについて(インクルーシブパーク)</li> </ul>	
4	つ の じ 寛 美	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 書かない窓口について</li> <li>2 総合体育館個人利用について</li> <li>3 平尾地域における歩道の安全対策について</li> <li>4 子ども読書活動推進の更なる取り組みについて</li> <li>5 食育の普及啓発について</li> </ul>	
5	市瀬 ひさ子	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者の日常生活支援の更なる拡充について</li> <li>2 食品ロス削減に向けた取り組みの更なる推進について</li> <li>3 災害時の避難における、市民の更なる安心と利便性の向上について</li> <li>4 稲城市立病院におけるタクシー利用者の更なる安心・安全を目指して</li> </ul>	
6	角 田 政 信	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 矢野口地区のまちづくりについて</li> <li>2 榎戸土地区画整理事業における都市計画道路及び公園整備について</li> <li>3 地域福祉の拠点となるふれあいセンターについて</li> <li>4 コミュニティソーシャルワークについて</li> </ul>	
7	佐藤 しんじ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 百村神化児童公園角の交差点の更なる安全対策について</li> <li>2 帯状疱疹ワクチンについて</li> <li>3 幼児教育・保育の無償化の対象外となる幼児教育類似施設に通う子どものいる世帯への支援について</li> </ul>	
8	坂田 たけふみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 稲城第三小学校内への学童クラブ設置について</li> <li>2 稲城市の新たな魅力の発信方法について</li> <li>3 市の公金振込みに対するチェック体制について</li> </ul>	
9	岡田 まなぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの権利を尊重する中学校の校則について</li> <li>2 都立高校入試の英語スピーキングテスト(ESAT-J)導入の問題点について</li> <li>3 補聴器助成など高齢期の聞こえの支援について</li> <li>4 民生費、教育費、土木費など目的別歳出について</li> <li>5 子どもの医療費無料化の拡充について</li> </ul>	
10	岩佐 ゆきひろ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 市民プールの対応について</li> <li>2 大型交番の誘致について</li> <li>3 プラスチック再資源化事業の実施について</li> <li>4 向陽台小学校と城山小学校の統廃合について</li> <li>5 特別支援教室(すまいるルーム)について</li> <li>6 稲城市役所及び、稲城市立小・中学校への不審物設置予告への対応について</li> </ul>	

11	武田 まさひと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公民館のWi-Fi設備について</li> <li>2 稲城市立病院の病室Wi-Fiについて</li> </ol>	
12	梶浦 みさこ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 更年期障害・症状の対策・支援の強化について</li> <li>2 市広報のアプリ配信について</li> <li>3 コミュニケーション促進として「たき火」を囲んでの語らいの場の創出について</li> </ol>	
13	村上 洋子	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進と合理的配慮について</li> <li>2 プラスチック廃棄物の再資源化について</li> <li>3 生活困窮者の支援について</li> </ol>	
14	田島 きく子	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 気候変動・脱炭素化の対策について</li> <li>2 プラスチック廃棄物再資源化事業について</li> <li>3 多摩川の水害対策について</li> <li>4 認可保育園の待機児童解消について</li> <li>5 市民の生命と暮らしを守る新型コロナ対策について</li> <li>6 生理の貧困について</li> </ol>	
15	中 田 中	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 GIGAスクール構想に関する市の取組みについて</li> <li>2 地域行事およびイベントの開催について</li> </ol>	
16	いそむら あきこ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 誰一人取り残されない不登校支援について</li> <li>2 中学校の校則のあり方について</li> <li>3 児童館のよりよい利用について</li> <li>4 里親制度の普及・啓発について</li> <li>5 生理の貧困対策について</li> </ol>	
17	榎本 久春	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域包括支援センターの体制強化について</li> <li>2 上谷戸緑地体験学習館の駐車場の利用方法について</li> <li>3 更なる火災予防で市民が安心できる防災対策について</li> </ol>	
18	鈴木 誠	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災に関する稲城市の取り組みについて</li> <li>2 「歯」の健康寿命増進について</li> <li>3 自治会支援施策の検討状況について</li> </ol>	

通告番号	会 派 名	氏 名
1	新政会	北浜けんいち

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>稲城市の在宅高齢者の見守りについて</p> <p>令和4年度の新規事業として、在宅高齢者の見守りに関するサービスが、3年間の試行事業として実施されます。LED電球を活用した見守り事業及び生活リズム等をモニタリングする、見守りセンサーを活用した見守り事業について、市の見解を伺います。</p> <p>(1) LED電球「見守り電球」を活用した見守りサービスについて</p> <p>① 事業内容について</p> <p>② 対象者について</p> <p>③ 実施期間について</p> <p>④ 費用及び申込方法について</p> <p>⑤ 周知の方法について</p> <p>(2) 見守りセンサーを活用した見守りサービスについて</p> <p>① 事業内容について</p> <p>② 対象者について</p> <p>③ 実施期間について</p> <p>④ 費用及び申込方法について</p> <p>⑤ 周知の方法について</p>	

項目 番号		摘 要
2	稲城市産農産物利用飲食店等応援	
	プロジェクトについて	
	令和4年度の新規事業として、新型コロナウイルスの感染拡大により影響を受けた、市内飲食店	
	等の支援と、稲城市産農産物の消費拡大や販路拡大を図ることを目的とする、このプロジェクトに	
	について市の見解を伺います。	
	(1) 事業概要について	
	①一つの事業者に対する事業費と、補助率につ	
	いて	
	②この事業の対象となる事業者の、条件と申込	
	の方法等について	
	③補助の対象となる経費等について	
	④購入先として対象となる市内農業者等につ	
	いて	
	(2) 事業者と市内農業者への周知と、サポート	
	について	
	①事業の周知について	
	②サポートについて	
	(3) 市民及び飲食店利用者への周知について	

通告番号	会 派 名	氏 名
2	日本共産党	山岸太一

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>負担増と給付制限をやめ、誰もが利用できる介護保険制度に向けて 2024年度からの新たな介護保険事業計画に向けて、財務省などがさらなる利用者の負担増や利用制限を打ち出しています。これらの制度改悪に反対し、誰もが利用できる介護保険制度にしていくことを求める立場から質問します。</p> <p>(1) 財務省による「介護保険制度改革」について ① 4月13日付「財務省財政制度分科会」の「資料1. 社会保障－4. 介護・障害－ケアマネジメントの利用者負担の導入」の中で主に述べられている内容について聞きます。</p> <p>② 同資料の「軽度者へのサービスの地域支援事業への移行等」の中で主に述べられている内容について聞きます。</p> <p>③ 第9期介護保険事業計画を作成するにあたっては、これ以上の負担増や給付制限を行わず、必要な人が必要なサービスを利用できる介護保険制度にしていくことが必要だと考えるが認識を聞きます。</p>	
2	<p>平尾団地再生の住民負担軽減のための支援について 平尾団地の建替え計画が検討される中で、住民からは費用負担について不安の声が出されています。負担を軽減するための補助事業の実施を求める立場から質問します。</p> <p>(1) 今後の計画について ① 建て替え決議までの今後の段取りについて聞きます。</p> <p>② 建て替え決議後から工事着工までの段取りについて聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>(2)「東京都都市居住再生促進事業」について</p> <p>①事業の目的・概要について聞きます。</p> <p>②「マンション建替タイプ」の補助金の種類・限度額、補助要件について聞きます。</p> <p>③近隣市での実施状況について聞きます。</p> <p>④住民や住民団体から市に対して寄せられている補助を求める要望等について聞きます。</p> <p>⑤市としての補助事業の実施について認識を聞きます。</p> <p>小中学校の保護者負担の無償化により、安心して子どもを育てられる環境づくりについて</p> <p>小中学校の教育活動において、様々な形で保護者の負担が発生しています。日本国憲法に基づいて義務教育の完全無償化を求める立場から質問します。</p> <p>(1)小中学校での保護者の負担する費用について</p> <p>①小中学校での給食費の金額について聞きます。</p> <p>②小中学校で保護者が私費購入する副教材の主な内容と金額について聞きます。</p> <p>③小中学校の宿泊行事や修学旅行等で保護者が負担する金額について聞きます。</p> <p>④中学校の各学校の男女の制服の平均的な金額について聞きます。</p> <p>(2)稲城市「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告書」について</p> <p>①同調査の「第2章-3家庭の暮らし向きについて」の中の「生活費の中で負担に感じるもの」の回答状況について聞きます。</p> <p>②同調査の「第5章-2地域での子育て・生活環境について」の中の「子育てに関して悩んでいることまたは気になることの状況」の回答状況について聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p>③同調査の「第5章-3 地域の子育て支援の環境や支援への満足度」の中の「子育て支援充実への要望」の回答状況について聞きます。</p> <p>(3) 小中学校教育の完全無償化について</p> <p>①小中学校の教育活動において保護者負担を無償化することについて認識を聞きます。</p> <p>社会インフラとして地域の買い物拠点を守っていくことについて 平尾団地商店街スーパーヤマザキの今後の営業について、住民から心配をする声が寄せられています。地域の買い物拠点を守り、住民の不安解消を求める立場から質問します。</p> <p>(1) 平尾団地商店街スーパーヤマザキの営業に関連して、市に寄せられている声について聞きます。</p> <p>(2) 住民の暮らしを支える社会インフラとして、地域の買い物拠点の維持は必要だと考えるが認識を聞きます。</p>	市長答弁を 求める



通告番号	会派名	氏名
3	新政会	川村 あや

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p><b>市民サービスの向上「書かない窓口」導入について</b></p> <p>近年、行政手続き申請者および職員の負担軽減、およびコロナ禍で生活様式の変化に伴い「書かない窓口」が国や地方自治体から注目を集めています。 「書かない窓口」というのは、申請者が手書き、いわゆる紙の申請書を手書きして何回も提出するという以外の方法で、申請書を作成するシステムの事です。 若い世代から高齢者まで、複数の手続きが1度で済むサービスは市民にとっても職員にとってもメリットが多いと考えることから質問させていただきます。</p> <p>(1)市の窓口サービスの現状と課題について ①コロナによって生活様式に変化がありました。その一つに、人との接触を制限するという事があります。この事をきっかけに、稲城市役所でも窓口業務が制限され、職員の業務負担が増えて市民の方々にも不便をお掛けしました。 今後も、ウィズコロナとして新しい生活様式が求められることから、市役所においてもICT環境の整備の加速化が求められていると思います。 市の考えを伺います。</p> <p>(2)「書かない窓口」のシステムについて ①基本的には、書かせない窓口・何度も聞かない窓口・手続き漏れのない窓口という、住民目線の「わかりやすさ」「やさしさ」が必要であると思います。 市の考えを伺います。</p> <p>②北見市の窓口支援システムについて市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質問要旨	摘要
2	<p><b>市内中学校での部活動指導員について</b></p> <p>現在、稲城市の中学校では多くの部活動が行われています。 部活動は教員である顧問がいないと活動することはできません。 その為、積極的に部活へ参加できる顧問と参加できない顧問が出てしまっているのが多くの教育現場の現状です。 教員の負担軽減及び部活動の技術や質の向上を目的とした部活動指導員いわゆる教員以外の外部指導者が制度化され、国でも推奨していることから市内での状況を伺います。</p> <p>(1)市内中学校の部活動について ①現在の部活動の数を伺います。</p> <p>(2)市内中学校の外部指導員について ①市内中学校の部活動、特に運動系の部活では顧問以外の外部指導員(コーチ)を採用されている学校がありますが、外部指導の割合またその部活の種類を伺います。</p> <p>(3)市内中学校の部活動指導員について ①これまでも部活動によって外部からの指導者を、コーチとして活用されていますが、外部指導の身分は法律上不透明で、自治体によって報酬や研修についての規定が異なり、あくまでも教員の顧問が配置されることが前提で、その顧問を補助することが役割となっていることから顧問なしでの部活動や大会などに生徒を引率することが認められていません。しかし、2017年に制度化された部活動指導員は、学校教育法において学校職員という身分が定められています。報酬が有償であることや、研修が義務化され単独で顧問になることや大会等に生徒を引率することが可能になりました。 市内での部活動指導員の採用状況について伺います。</p>	

項目 番号	質問要旨	摘要
3	<p><b>だれもが楽しめる公園づくりについて(インクルーシブパーク)</b></p> <p>緑が多い稲城市は、その環境を活かした公園が多く、市民の憩いの場所として幅広い年齢層に利用されています。現在、公園遊具の老朽化やコロナ対策により市内の公園遊具の撤去および入れ替え・メンテナンス等も進んでいます。最近では、赤ちゃんから高齢者まで、そして健常者も障がい者も分け隔てのない優しくて幅の広がるインクルーシブパークと呼ばれる公園づくりが市内でも進められています。その中で、3月の定例会の代表質問の際に、新設される吉方公園でのインクルーシブに配慮する部分について質問させていただきましたので、その後の進捗について伺います。</p> <p>(1) 吉方公園整備の概要について ①公園面積及び特徴について伺います。</p> <p>(2) 吉方公園整備の方針について ①公園整備のコンセプトについて伺います。 ②公園遊具の現状と選定基準について伺います。</p> <p>(3) ワークショップについて ①これまでの取り組み及び進捗について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
4	公 明 党	つ の じ 寛 美

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>書かない窓口について</p> <p>市民にとって使いやすい市役所となるように、窓口の更なる利便性の向上に取り組むために手書きせず申請できる「書かない窓口」を導入されてる自治体は、深谷市や越谷市、松阪市などがありました。申請者の本人確認を行った上で、氏名・住所・生年月日などの一部項目を申請書等に印字し、申請書の作成を支援するものです。印刷された申請書を確認いただくことで、書く負担の軽減を目指す取り組みです。</p> <p>(1) 稲城市の認識について伺います。</p> <p>(2) 稲城市の取り組みについて伺います。</p>	
2	<p>総合体育館個人利用について</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として入館時には、健康チェックシートの提出と検温の実施にご協力頂きながら、スポーツを楽しく実施されてました。コロナ禍により他の自治体が管轄する公共施設利用が中止となり、稲城市総合体育館の個人利用者も市外から増加傾向だと伺っています。団体においては、市内外の区別はあるようです。個人利用者に関しては、稲城市民でありながら思うように活動が出来ないとお話も伺いました。</p> <p>(1) 個人利用方法と料金について</p> <p>(2) 個人利用の今後の料金について</p>	
3	平尾地域における歩道の安全対策について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>「平尾小学校通り沿いの歩道に、雨が降り、濡れていると、コケなどにより滑りやすく転倒しやすい。」という住民の方々の声や、平尾地域の外周道路や平尾小通り、中央通りの歩道の木の根上がりについての話も伺いました。また、緑を残してほしいと願う一方で、樹木が大きくなって通行の妨げとなる事を住民の方からお声も伺います。</p> <p>(1)平尾地区の歩道の現状について伺います。</p> <p>(2)これまで実施してきた安全対策について伺います。</p> <p>(3)今後の取り組みについて伺います。</p>	
4	<p>子ども読書活動推進の更なる取り組みについて4月23日子ども読書の日や、こども読書週間は、「子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所を」との願いから誕生した取り組みで、「子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さ」を考える取組でもあります。また、この度、文部科学大臣表彰として、稲城七小学校と稲城市立図書館が令和4年度子供の読書活動優秀実践校と図書館のダブル受賞されたと伺いました。大変に名誉あることに嬉しく思います。</p> <p>(1)稲城第七小学校と稲城市立図書館が「子供の読書活動優秀実践校及び優秀実践図書館」の文部科学大臣表彰に至った経緯について伺います。</p> <p>(2)表彰を受けた稲城第七小学校以外の学校において、学校図書館活性化推進員を活用した効果的な取組について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(3)市内図書館における子ども読書推進の今後の 取り組みについて伺います。	
5	<p>食育の普及啓発について</p> <p>第4次食育推進基本計画により、毎年6月を「食育月間」として定めてあり、毎月19日は「食育の日」となっています。稲城市民が様々な形で食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な生活が実践できるよう願っています。健康な食事づくり推進員の活動のレベルアップにより市民の食生活改善を図ることが重要と考えます。</p> <p>(1)健康な食事づくり推進員の現状について伺います。</p> <p>(2)健康な食事づくり推進員のコロナ禍における活動も含めた今後の取り組みについて伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
5	公 明 党	市瀬 ひさ子

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>高齢者の日常生活支援の更なる拡充について</p> <p>高齢者は特に日常生活が不活発になりやすく、フレイルのリスクが高まることが懸念されています。ウイズコロナの時代、健康寿命の延伸に向け生活不活発病にならないためにも、高齢者の日常生活支援の更なる拡充は重要と考えます。</p> <p>(1)生活を不活発にさせない、また利便性を図るための日常生活用具としての杖やシルバーカーなど、高齢者の生活に欠かせない補助具の必要性が増すと考えます。介護保険を利用していない方への補助について、市の見解を伺います。</p> <p>(2)加齢性難聴への支援について</p> <p>①加齢とともに聞き取る力が弱くなる耳のフレイル。そのままにしておくと会話が減り、認知機能の低下につながりかねないという指摘もあることから、「加齢性難聴」の早期発見に取り組むことは重要であると考えます。介護予防教室や通いの場等で、聞こえを簡単にチェックできるアプリを利用した「ヒアリングフレイルチェック」を行うことで、耳鼻咽喉科への受診による補聴器の購入など、早期治療につなげられると考えます。市の見解を伺います。</p> <p>②金銭的な理由で補聴器の購入をためらうことがないように、所得条件等を設けたとしても難聴高</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>齢者の聞こえを支援し、高齢者の社会参加を応援するための補聴器購入費の助成が必要であると考えます。市の見解を伺います。</p>	
2	<p>食品ロス削減に向けた取り組みの更なる推進について</p> <p>食品ロスとは本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品であり、日本では令和元年度に約 570 万トンの食品ロスが発生したと推計されています。また、捨てられた食べ物をごみとして廃棄するため、ごみ処理に多額のコストがかかるとともに、環境負荷の原因ともなっています。公明党の竹谷とし子参議院議員は、国民運動として食品ロス削減に取り組む必要性から法整備に尽力し、2019 年 10 月には、食品ロス削減推進法が施行されました。国や地方公共団体、事業者や消費者等の連携強化による今後の取り組みに期待するところです。</p> <p>(1) 稲城市においては本年 2 月より、新たな取り組みとして稲城市社会福祉協議会と市が協働した、フードドライブが実施されています。ご提供頂いた品目や量・提供先などフードドライブの状況について伺います。</p> <p>(2) 賞味期限の近い食品やパッケージの印字ミス等で店頭には並べられない商品を扱う、冷蔵機能付き食品ロス削減無人販売機「fuubo」を設置する取り組みが全国で始まっています。利用者は定価の 3～5 割引でのキャッシュレス購入が可能であるとともに、食品を製造する市内事業所等との提携</p>	



項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>を行うことで、市内の食品ロス削減にも協力できるなど、食品ロス削減に向けた市民の機運向上にもつながると考えます。SDGsを推進する稲城市において、市内公共施設への設置に対する市の見解を伺います。</p>	
3	<p>災害時の避難における、市民の更なる安心と利便性の向上について</p>	
	<p>災害時における避難所等での生活に備え、稲城市においても様々な資器材や食糧が備蓄されるとともに、防災訓練等での避難所設営・運営の訓練や地域における防災講座などが行われています。この様な中、更なる市民の安心と利便性の向上につながる取り組みについて伺います。</p>	
	<p>(1)多摩川に近く独居高齢者を多く抱える大丸地域の都営住宅では、水害時における早めの避難が難しいとのお声を伺っています。身体的に避難に時間がかかる方、また単独での避難が難しい方など、一時的に雨風をしのげる上層階の空き住戸への避難が可能となることで、自助・共助の取り組みに更なる安心が加わると考えます。東京都では、大規模水害が発生した際に、避難場所等に避難する時間的余裕がない場合の緊急避難先として、都営住宅等の上層階の空き住戸を一時的に活用する協定を3区・2市と締結し、空き住戸の活用を図っています。水害時における住民の安心・安全を確保するため、東京都との協定締結を行うべきと考えます。市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(2)災害時に多くの人々が集まる避難所では、トイレ不足や衛生面等によるトイレ問題は大きいと考えます。稲城市はこれまでトイレの洋式化を進め、また避難時のマンホールトイレやポータブルトイレなどの配備等を行ってきました。</p>	
	<p>①発災後、断水や停電等により水洗トイレが使用できない際のトイレの利用状況等について伺います。</p>	
	<p>②けん引式移動設置型のトイレトレーラーを相互派遣できる全国ネットワーク、「災害派遣トイレネットワークプロジェクト みんな元気になるトイレ」の取り組みが進む中、現在 16 自治体が導入、約 300 ほどの自治体が検討中であると伺っています。交付金を活用したプロジェクトに対する市の見解を伺います。</p>	
	<p>(3)様々な病気や事故などによってストーマを造設されたオストメイトの方が、安心して避難できる取り組みについて伺います。</p>	
	<p>①市内におけるオストメイトの方の掌握について伺います。</p>	
	<p>②市内におけるストーマ用装具の備蓄について伺います。</p>	
	<p>③オストメイト対応のトイレがない避難所へのオストメイト用簡易トイレの備蓄について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p>稲城市立病院におけるタクシー利用者の更なる安心・安全を目指して</p> <p>稲城市立病院を利用される方より、安心して乗降できるタクシー乗り場について検討して頂きたいとお声を頂いています。現在タクシーとiバスの乗り場は、病院正面玄関向かって右側にあります。</p> <p>乗り場と道路には段差があることから、利用者がタクシーに乗り込む際に不便を感じるということでした。そこで、高齢者や歩行に困難を抱える方々が安心して利用できるタクシー乗り場の在り方について伺います。</p> <p>(1)タクシー乗り場について市立病院の考え方を伺います。</p> <p>(2)利用者の安心・安全を第一に考え、乗り場の変更や、変更が困難な場合には、利用者がいることを知らせる回転灯等を設置し、正面玄関でタクシーに乗れるようにする等、検討していくことも必要ではないかと考えます。市立病院の見解について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
6	新政会	角田 政信

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p><b>矢野口地区のまちづくりについて</b></p> <p>(1) 都市計画マスタープランについて</p> <p>現在、市では、社会経済情勢の変化やまちづくりの動向等による現況の変化などを踏まえ、令和2年度から令和4年度までの3カ年で「都市計画マスタープラン」を策定すると伺っております。</p> <p>また、「都市計画マスタープラン」の策定にあたっては、オープンハウスで市民の声をお聴きする機会を設けながら、庁内検討会や策定委員会での議論・検討を進め、将来都市像やそれに基づく土地利用等の方向性を示すと伺っております。そこで、都市計画マスタープランの策定に関連して確認します。</p> <p>① これまでの検討状況と今後のスケジュールについて伺います。</p> <p>② 現行プランにおける地域別構想から拠点別構想に見直すことについて伺います。</p> <p>③ 都市拠点として設定されている矢野口駅周辺地区やレクリエーション地区のまちづくりの方向性について伺います。</p> <p>(2) 市道1407号線の整備について</p> <p>近年の大型台風の到来やゲリラ豪雨による既成市街地での浸水被害を防ぐための、水路護岸整備や下水道雨水排水整備が急務となっている現状で、田川の排水断面の拡大及び暗渠化を含む市道1407号線の整備に着手すると伺っております。そこで、市道1407号線の整備について確認いたします。</p> <p>① 田川の現状について伺います。</p> <p>② 整備内容について伺います。</p> <p>③ 今後の整備スケジュールについて伺います。</p>	
2	<p><b>榎戸土地区画整理事業における都市計画道路及び公園整備について</b></p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(1) 多7・5・2号公園通り梨の道線のこれまでの位置づけや検討状況について伺います。	
	(2) 矢野口公園につきましては、地区にふさわしい公園となるよう整備していくべきと考えますが、どのように整備していくのか伺います。	
3	<b>地域福祉の拠点となるふれあいセンターについて</b>	
	(1) 現状について伺います。	
	(2) 今後について伺います。	
	(3) ふれあい・いきいきサロン推進事業について	
	①概要について伺います。	
	②令和3年度の実績について伺います。	
4	<b>コミュニティソーシャルワークについて</b>	
	(1) コミュニティソーシャルワークの取組として、稲城市社会福祉協議会のフードドライブの概要について伺います。	
	(2) 課題について伺います。	
	(3) 今後について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
7	公 明 党	佐藤しんじ

項目 事項	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>百村神化児童公園角の交差点の更なる安全対策について</p> <p>通学路でもある百村神化児童公園角の交差点についてはこれまでも、交通事故を未然に防ぐための安全対策が行われてきたことは承知しております。しかし今なお、事故発生を懸念する保護者の声がございます。また私もこの間、登校時の様子を数度見て参りましたが、鶴川街道から進入してくる車が多く、当該交差点における事故発生の危険性を実感いたしました。つきましては、通学路である当該交差点での事故を防ぐための更なる安全対策を求め質問いたします。</p> <p>(1)これまで行われてきた安全対策について伺います。  ①市の対応について伺います。  ②多摩中央警察署の対応について伺います。</p> <p>(2)今後の対応について伺います。</p>	

項目 事項	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>帯状疱疹ワクチンについて</p> <p>加齢やストレスなどで免疫力が低下した際に、皮膚や神経に炎症を起こす帯状疱疹は、幼少期にかかった水ぼうそうのウイルスが再活性化し、激しい痛みを伴って発症すると言われています。また、発症する率も、50歳以上の3人に1人と高いこともあり、最近では、テレビのCMなどでも発信されるなど、予防のためのワクチン接種が推奨されているものと認識しています。しかし、帯状疱疹のワクチンは、2回接種すると4万円程の費用がかかるため、接種をためらい、諦めてしまう方も多いようであります。これまで国では、「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 ワクチン評価に関する小委員会」にて、帯状疱疹ワクチンについての審議が重ねられていると承知しています。そのことを踏まえ質問いたします。</p> <p>(1)国の動向について伺います。</p> <p>(2)帯状疱疹ワクチンについて、市の認識を伺います。</p>	

項目 事項	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>幼児教育・保育の無償化の対象外となる幼児教育類似施設に通う子どものいる世帯への支援について</p> <p>家庭の経済事情にかかわらず、希望すれば誰もが必要な教育を受けられる社会を目指し、教育費の負担軽減を私たち公明党は一貫して訴えて参りました。そして、2019年10月から、幼児教育・保育の無償化が始まりました。この制度が施行された後、公明党全国約3000人の議員による、幼児教育・保育の無償化について、子育て世代のご意見を伺う運動を展開いたしました。様々なご意見をいただく中、幼稚園と同様の教育活動を行いながら、敷地面積が狭いなどの理由で幼稚園としての基準を満たさず、無償化の対象にならない、いわゆる幼児教育類似施設の利用者の負担を軽減して欲しい、という声がありました。そこで公明党は、このような幼児教育類似施設に通う子どものいる世帯を支援するための制度作りを強力に推進し、その結果、一定の基準を満たせば、1人当たり最大月額2万円を給付する制度が、令和3年4月からスタートいたしました。</p> <p>(1)幼児教育類似施設に通う子どものいる世帯を支援する制度について伺います。</p> <p>①市の認識を伺います。</p> <p>②稲城市内における幼児教育類似施設の現状について伺います。</p> <p>③市民からの意見、要望について伺います。</p> <p>(2)幼児教育類似施設に通う子どものいる世帯への支援について、市の今後の取り組みについて伺います。</p>	



通告番号	会 派 名	氏 名
8	新 政 会	坂田 たけふみ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 用
1	<p>稲城第三小学校内への学童クラブ設置について</p> <p>稲城第三小学校は、1956年に創立し、今年で66周年を迎えます。</p> <p>今年度には、校舎基本調査等委託として、校舎建物の老朽化の状況を調査し、今年度の整備方針を検討するための予算が成立しました。</p> <p>また、学童クラブの需要増に伴い、待機児童に対する緊急対策として受入定員の拡大についての予算も成立しました。</p> <p>市ではこれまで、全ての子どもが安全に安心して放課後の居場所として利用できるように、全小学校で放課後子ども教室を実施しています。しかし、学童クラブについては、全ての小学校に学童クラブが設置できていません。</p> <p>現在、小学校内に学童クラブが設置できていない小学校は、第七小学校及び第三小学校の二校ありますが、第七小学校は、近隣に第二文化センター学童クラブ及び民設民営の学童クラブ子どもの森があります。</p> <p>しかし、第三小学校に通う児童は、学校から距離がある本郷学童クラブ及び第四文化センター学童クラブを利用していることや、第三小学校には、特別支援教室があり小学校内に学童クラブを設置してほしいという声を多くいただいております。</p> <p>これらのことから、校舎基本調査等委託の結果を踏まえ、今後の改修または改築工事等の計画に合わせ、第三小学校内に学童クラブを設置する事を検討していく事が必要であると考えます。</p> <p>(1)校舎基本調査等の結果が出る時期について</p> <p>(2)本郷学童クラブ及び第四文化センター学童クラブの令和4年度の入所者数及び待機児童数について</p> <p>(3)これまでの第三小学校内における学童クラブ設置に向けた検討経過について</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 用
	(4)第三小学校の児童の保護者から第三小学校内に学童クラブ	
	設置について要望があったのか、要望があったのであれば、	
	どのような要望であったのかについて	
	(5)第三小学校内に学童クラブを設置する事に対する市の考え方	
	について	
2	稲城市の新たな魅力の発信方法について	
	稲城市では現在、広報やホームページを通じて、様々な市の	
	魅力や情報を提供しています。今後はこれまでの情報提供と共に	
	より多くの方々に興味関心を持ってもらえるような、新たな魅力、	
	情報の発信方法を考えていく必要性を感じます。	
	クラウドファンディングは、個人ではインターネットを通じて、自身の	
	活動や夢を発信することで、その思いに共感した人や活動を応援し	
	たいと思っている人から資金を募る仕組みとして普及しています。	
	南山小学校では、数年来総合学習の時間に、稲城の魅力を発信	
	し、クラウドファンディングで資金を調達して、稲城の梨を使った	
	お菓子などを返礼品として寄付者に品物を届けるという模擬会社	
	組織を作り、専門家のアドバイスをもらい児童たちが学習活動の	
	一環としてキャリア教育を行っています。	
	一方、行政ではふるさと納税制度があり、多くの自治体では寄付	
	の返礼が行われ、その自治体から本来歳入出来る納付額が減額	
	されている状況です。	
	そこで、市の歴史や現存している資料が現物或いは紙の資料	
	としてありますが、これをデジタルミュージアム化できればいつでも	
	Webで観覧することができます。しかし、多額の経費がかかると	
	思われるので、クラウドファンディングでデジタルミュージアム資金	
	を調達し、民間資金を募ることで、これらの事業を展開できるのでは	
	ないかと考えます。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 用
	(1)ふるさと納税額の3年間の実績と今後の見込みについて	
	(2)資金調達におけるメリットとデメリットについて	
	(3)現在の歴史や資料のWebでの掲示状況と今後の展開について	
	(4)歴史資料部門だけでなく、商業、観光など幅広く事業が展開 出来ると考えるが市の見解について	
3	市の公金振込みに対するチェック体制について	
	山口県阿武町役場で、新型コロナウイルス対策の臨時特別給付 金を誤って、1世帯に4630万円を振り込んだことが発覚した問題 は、TVや新聞、インターネットニュース等でも連日取り上げられ、 国民から多くの関心を集める事件へと発展しました。	
	幸い、法的措置により、現時点で約9割の回収にこぎつけたとの 事ですが、こうした誤送金問題は他の自治体でもおきています。	
	当市においても、このような問題が起きないように、常日頃から、 チェックを怠らない体制が重要だと考えます。	
	(1)市の公金の振込みまでのチェック体制について	

通告番号	会 派 名	氏 名
9	日本共産党	岡田まなぶ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p><b>子どもの権利を尊重する中学校の校則について</b></p> <p>校則のあり方が社会問題となっています。人権の立場から校則を見直す地方自治体が生まれ、文部科学省が設けた外部有識者の会議でも「人権に配慮した校則」を求める意見が出され、個人の尊厳と多様性の時代にふさわしい学校のあり方が問われています。</p> <p>子どもの権利を尊重する視点に立った中学校の校則の改善を求めて質問します。</p> <p>(1) 校則は子どもの権利条約や子どもの人権を尊重することを基本としたうえで定めるものと考えますが、校則についての基本的な考えは。</p> <p>(2) 東京都教育委員会は 2022 年 3 月、都立高等学校等における校則等に関する取組状況を発表しました。校則等について自己点検に取り組むよう各校に通知し取り組んだ結果、「髪を一律に黒色に染色」「下着の色の指定」といった 5 項目 196 課程の廃止を決定しました。この取り組みを稲城市でもいかしていくべきと考えますが認識は。</p> <p>(3) 「ツープロックなど奇抜な髪形も控える」「下着は白を基本」などの校則は、子どもの人権の尊重の視点から見直すべきと考えますが認識は。</p> <p>(4) 校則を、子ども、教職員、保護者が語り合い、自主的により良く変えていく機会を保障していくことが大切と考えますが認識は。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p><b>都立高校入試の英語スピーキングテスト（ESAT-J）導入の問題点について</b></p> <p>東京都教育委員会は、現在の中学校 3 年生が受験する令和 5 年度（2023 年度）都立高入試から、東京都中学校英語スピーキングテスト事業の中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の結果を活用するとしています。このスピーキングテストに、公平性や公正性に対して疑問が広がっています。子どもたちの入試の公平性を求める立場から質問します。</p> <p>（1）都立高入試へのスピーキングテスト（ESAT-J）導入の目的と実施スケジュールについて。</p> <p>（2）入試は公平性と正確さが求められると考えますが認識は。</p> <p>（3）スピーキングテストは調査書でどのように扱われるか。</p> <p>（4）スピーキングテスト評価はどのように点数化されるか。</p> <p>（5）スピーキングテストの開示請求について。</p> <p>（6）入試において最も重視されなければならない公平性、中立性、信頼性に疑問のあるまま実施されるべきではないと考えますが認識は</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p><b>補聴器助成など高齢期の聞こえの支援について</b></p> <p>(1) 多くの高齢者にとって難聴は身近な問題です。難聴になると、家庭の中でも社会的にも孤立しやすく、会話の機会も減り、ひきこもりになりがちです。65歳以上の2人に1人が難聴で、生活の質の低下につながるという実態や難聴が認知症のリスクの要因であるという指摘がされています。高齢化社会のもと、加齢性難聴への聞こえの支援が重要であると考えますが認識は。</p> <p>(2) 「聴力低下が見られる方にとって、早期からの補聴器使用は、日常生活の質の向上を図る上で有効だと認識している」と東京都は都議会で答弁しています。早期からの補聴器使用について市の認識は。</p> <p>(3) 専門的知見を持った、補聴器相談医や認定補聴器技能者に、市民が相談しやすいように支援することについて。</p> <p>(4) 補聴器の普及を進める上で金額が高いことが一番の課題となっています。特に所得の低い人へのサポートが求められています。都内の自治体でも高齢者を対象にした補聴器の購入助成が広がっています。市としても、補聴器の購入助成を検討すべきと考えますが認識は。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p><b>民生費、教育費、土木費など目的別歳出について</b></p> <p>目的別歳出の三大経費と言われている民生費・教育費・土木費から市政を問う。</p> <p>(1) 目的別歳出について。</p> <p>(2) 普通会計における5年間（平成28年度（2016年度）～令和2年度（2020年度）の民生費、教育費、土木費の構成比率（稲城市と多摩26市平均）、多摩26市中の稲城市の順位および市の認識は。</p>	
5	<p><b>子どもの医療費無料化の拡充について</b></p> <p>子育ての大きな不安の1つに子どもの病気があります。子どもの医療費無料化の拡充で、子どもの医療費の心配をなくすことは重要な子育て支援です。以下、質問します。</p> <p>(1) 子どもの医療費無料化の拡充で、子どもの医療費の心配をなくすことは、重要な子育て支援と考えるが認識は。</p> <p>(2) 小中学生の所得制限の撤廃、通院の自己負担をなくすべきと考えるが認識は。</p> <p>(3) 医療費無料化を18歳（高校生）まで拡充すべきと考えるが認識は。</p> <p>(4) 国に子どもの医療費助成（無料化）制度の創設を求めるべきと考えるが認識は。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
10	改革稲城の会	岩佐ゆきひろ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>市民プールの対応について</p> <p>(1) 昨年度2年ぶりに再開した稲城市民プールですが、今年度の開園時期、入場制限についてうかがいます。</p> <p>① 開園時期について ② 入場制限について</p>	
2	<p>大型交番の誘致について</p> <p>(1) 警視庁本部や多摩中央警察署に対し、大型交番の誘致を要望してきましたが、現在までの進捗状況等についてうかがいます。</p> <p>① 候補地について ② 進捗状況について</p>	
3	<p>プラスチック再資源化事業の実施について</p> <p>(1) 過去2回、建設環境委員会において報告のあったプラスチック再資源化事業の実施についてですが、その後の市民の方への説明会等、市民の方々から寄せられた意見をうかがいます。</p> <p>(2) プラスチックのゴミ袋の値段や、地域での収集日など、実際に市民の生活に直結する内容の意見がよせられていますが、今後の全体的な周知の方法についてうかがいます。</p>	



4	向陽台小学校と城山小学校の統廃合について
	<p>(1) 現時点では向陽台小学校と城山小学校の統廃合はないですが、向陽台小学校と城山小学校が、近々、統廃合するのではないかと、という声が相当数、届いています。</p> <p>今後、学校規模、生徒数や、クラス数等、様々な状況を考慮した際、可能性としてありえるのか、今後の計画等についてうかがいます。</p> <p>① 城山小学校、生徒数とクラス数の過去5年間の推移について</p> <p>② 城山小学校、今後の児童数推移について</p> <p>③ 今後の向陽台小学校、城山小学校の統廃合について</p>
5	特別支援教室（すまいるルーム）について
	<p>(1) 平成29年から小学校全校に配置され、その後、中学校全校にも配置をされた特別支援教室（すまいるルーム）ですが以下の点についてうかがいます。</p> <p>① 教員の配置について</p> <p>② すまいるルームの授業によって遅れた授業の対応や補助について</p>
6	稲城市役所及び、稲城市立小・中学校への不審物設置予告への対応について
	<p>(1) 稲城市に対し、役所及び小中学校に不審物を設置する旨の電子メールが届き、特に児童、生徒の保護者からは多くの不安の声が聞こえました。</p> <p>市、教育委員会の対応をうかがいます。</p> <p>① 稲城市としての対応</p> <p>② 稲城市立小・中学校における対応</p>

通告番号	会 派 名	氏 名
11	市民クラブ	武田まさひと

項目番号	質 問 要 旨	摘 要
1.	<p><b>公民館の Wi-Fi 設備について</b></p> <p>新型コロナもここ最近は落ち着いているものの、完全に警戒を解除するには至らず、新しい生活様式で市民生活においてもオンラインが定着している状況にあると思います。</p> <p>稲城市で Wi-Fi を利用して対面とオンラインを駆使した学習を求める声が増えています。市民への社会教育の在り方を考える場合、Wi-Fi の整備が欠かせないものということで質問をします。</p> <p>(1) 現在の Wi-Fi の考え方について伺います。</p> <p>① 令和 2 年第 4 回定例会で、対面を含むオンラインの講座について、IC カレッジとの連携によって研究するとありました。どのような研究を行い成果を得ることができたのか伺う。</p> <p>② コロナ禍での中央公民館の交流まつりは、令和 3 年度はオンラインというより、デジタルデータを集め、編集、HP にアップしたという流れです。他市では同様の手法以外に、ネットライブ配信を行っているところもあります。昨年の中中央公民館の交流まつりの実績をどう評価しているのか伺います。</p> <p>③ 稲城市は公共施設にいなぎ Free Wi-Fi を入れて運用していますが、各文化センターの半年間の利用状況を伺います。</p> <p>④ 観光施設ではない公民館で、NTTBP が提供するいなぎ Free Wi-Fi を利用している理由を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	適用
	<p>(2) 公共施設の Wi-Fi のコストについて伺う</p> <p>①中央公民館 4F 展示室で多摩ケーブルテレビのインターネットを利用していましたが、現在コロナワクチン接種会場で利用しているため、2F の講座室に移動させました。この時の工事費はいくらだったのか、また月額の利用料金とスペックを伺います。</p> <p>②令和 2 年第 4 回定例会では、市内全公民館の全室に LAN 整備を実施するには多額の経費を要することから困難、とご答弁がありました。その当時いくらかかると見積もっていたのかを伺います。また、その積算根拠と合わせて伺います。</p> <p>③令和 2 年第 4 回定例会において、多額の経費を要しないオンライン環境整備の方法があれば、対応を検討したいと答弁がありました。どのくらいの経費を想定しているのか伺います。</p> <p>(3) 稲城市が協定を結んだ多摩テレビ Wi-Fi サービスの民間へのサービス提供が始まりました。大きな経費はかけずに運用可能となっているのと同時に、移動ができるため、全室に置くというより必要時に随時貸し出す方式が利用できます。それを導入することで多くの利用者が学習機会を得やすくなると同時に講師が遠隔で参加することもできます。市民の学習機会を支援するためにも導入すべきと考えますが市の考えを伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	適用
2.	<p><b>稲城市立病院の病室 Wi-Fi について</b></p> <p>昨今のコロナ禍で、やむなく入院をしなければいけない患者が直面することの一つに、家族や友人との接点がなくなることがあげられます。面会ができないため、取り残された気持ちになるという声があがっています。</p> <p>そこで、患者がストレスをため込まずに精神的に少しでも安定した状況で治療を受けるには、病室に Wi-Fi 環境が必要だという声があります。様々な視点で Wi-Fi を整備する必要があると考えることから質問をします。</p> <p>(1) 稲城市立病院の現在の状況を伺います。</p> <p>①入院患者やそのご家族などから Wi-Fi の要望はでているのか、あるとしたらその内容を伺う。</p> <p>②コロナ禍において見舞いもできない状況下で、リモート面会も行っているようだが、その方法と利用状況を伺う。</p> <p>(2) 病室に Wi-Fi を導入することについて伺います。</p> <p>①2021年9月末まで厚生労働省で病室 Wi-Fi も補助金対象としていましたが、その補助内容を伺います。</p> <p>②稲城市立病院で、病室に Wi-Fi を導入することにより、医師への信頼や医療機器もさることながら、入院患者に寄り添った医療環境をさらに後押しするものと考えています。病院にとっても大きなアピール材料になると考えますが、見解を伺います。</p> <p>③稲城市立病院ではコロナ患者の受け入れをしている病院ということで、入院患者への制約が大きいと考えます。そこで病室で使える Wi-Fi の整備が必要だと考えますが見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
12	新政会	梶浦みさこ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>更年期障害・症状の対策・支援の強化について</p> <p>人生 100 年時代の健康戦略の一環として、国は令和 4 年度、更年期障害が日常生活に与える影響についての研究調査を実施することとしています。</p> <p>更年期について特出すべきは、加齢等によりホルモンバランスが緩やかに変化する男性更年期と、閉経(平均 50 歳)前後の約 10 年間にホルモンバランスが急激、かつ 180 度変化する医学的な更年期を全ての女性が迎える点であります。</p> <p>更年期の女性、約 6 割がホットフラッシュ(異常発汗)や火照り、苛立ち・不安感、手足の冷えなどの身体と精神の両面に更年期症状を自覚し、その約 3 割が神経痛や倦怠感、頭痛、うつ症状など日常生活に支障をきたす更年期障害により治療を受けているとされています。</p> <p>更年期の適切な心身のケアや治療が、多くの市民にとって高齢期の健康寿命延伸につながることを考え、市の見解を伺います。</p> <p>(1) 45～55 歳(更年期世代)の人口について</p> <p>2025 年日本の人口ピラミッドの山の頂点が、団塊世代から団塊ジュニアを含む、更年期世代に移ると予測されています。ファミリー世帯の転入が続いている稲城市において、45～55 歳(更年期世代)の人口の現状と推移について伺います。</p> <p>①令和 4 年 4 月の 45～55 歳(更年期世代)の合計人口と男女別人口、年齢ごとの人口分布の最頻値について</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>②令和 4 年 4 月と平成 24 年 4 月(10 年前)、それぞれの 45～55 歳(更年期世代)の人口(合計と男女別)と、その比較(増減数、総人口に対する割合の変化)について</p>	
	<p>(2)更年期、更年期症状、更年期障害について 健康的な生活習慣づくりや生涯を通じた疾病予防の視点から、女性・男性それぞれの更年期、更年期症状、更年期障害に関する健康課題の認識について伺います。</p>	
	<p>(3)これまでに実施した更年期に関する事業について 保健センターや健康プラザ、男女共同参画など、更年期に関する講座やイベント、相談対応など、これまでの約 5 年間に実施した更年期に関する事業について伺います。</p>	
	<p>(4)更年期症状・障害の健康相談・対策支援の強化について 更年期症状・障害に悩む当事者市民が医療機関の受診のタイミングなどを相談することができる、更年期に関する健康相談の強化を図っていただきたいと考えると共に、更年期症状・障害を緩和するための運動や食事、生活習慣の改善など心身のケアに関する情報提供や講座の実施など、継続的に実施いただきたいと考えます。更年期症状や更年期障害の健康相談の強化と支援対策の定期的な実施について伺います。</p>	
	<p>(5)更年期に関する知識の普及や更年期症状・障害への意識啓発の促進について 社会全体の更年期症状・障害に関する理解度はまだまだ低く、途上であると考えます。当事者だけではなく、広く多くの</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>市民、特に家族や職場などの関係者の更年期への理解が進むことにより、更年期に起因する大病を未然に防ぎ、社会的損失を防ぐことにつながると考えます。更年期に関する知識の普及、更年期症状・障害への理解促進を図っていただきたいと考え見解を伺います。</p>	
	<p>(6) 稲城市保健福祉総合計画(地域福祉計画)策定に向けたアンケート調査と更年期世代の健康感について</p> <p>①第三次稲城市保健福祉総合計画(地域福祉計画)策定に向けたアンケート調査結果について</p> <p>「自分の健康状態について」の調査結果において、30～39歳と40～49歳の市民の健康感を比較すると「健康でない」0%→2.8%、「どちらかといえば健康でない」4.8%→10.1%となっており、40代は「健康でない」と変化を感じる市民が最も多い年代と考えます。この結果を市はどのように考えているのか、また男女別の内訳について伺います。</p>	
	<p>②第四次稲城市保健福祉総合計画(地域福祉計画)策定に向けたアンケート調査と更年期について</p> <p>子育て支援・高齢者支援制度の拡大・充実が近年図られておりますが、その中間層である更年期世代に関する健康・保健政策について、今後はさらに注視する必要があるのではないかと考えます。第四次稲城市保健福祉総合計画(地域福祉計画)の策定にあたり、更年期世代の男女別の「健康感」や「自分の健康状態」をこれまで以上に丁寧に調査していただきたいと考え、市の見解を伺います。</p>	
	<p>(7)第四次稲城市保健福祉総合計画(地域福祉計画)と更年期障害・症状の対策支援について</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>自民党人生 100 年時代戦略本部 女性の生涯の健康に関する小委員会が令和 4 年 3 月、更年期女性の健康リスクを「これまで未対応だった女性特有の健康リスク」と位置づけ、対応を急ぐべきであるとの中間とりまとめを政務調査会に提出をしたとの報道など、今後、更年期を含めた女性の健康を包括的に支援する法整備が社会課題となりつつあります。第四次稲城市保健福祉総合計画(地域福祉計画)等において、健康・保健・医療・福祉の施策として更年期症状・障害への対策支援を検討し、計画に反映していただきたい考え、市の見解を伺います。</p>	
	<p>(8) 市立病院での更年期の対応について 女性・男性それぞれの更年期症状・障害について、診療の体制と状況について伺います。</p>	
	<p>(9) 市立病院外来診療での更年期症状・障害の対応強化について 日野市立病院では、更年期に特化した「女性内科」を設置し、更年期周辺世代である 40～65 歳の女性を対象に更年期に起こる様々な症状・身体の変化を内科の視点から診療にあたっているとのこと。 これまでの婦人科系疾患の治療、出産・分娩の診療と共に、初期段階からの更年期症状・障害について気軽に安心して受診できる産婦人科「女性診療外来」での更年期対応の強化・拡大を図っていただきたいと考えるとともに、男性の更年期治療もさらに積極的に取り組んでいただきたいと思えます。市立病院外来診療での更年期症状・障害の診療の強化について見解を伺います。</p>	



項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(10)市立病院健診センターでの女性ホルモン・男性ホルモンの血液検査オプションについて</p> <p>更年期の不調は血液検査のホルモン数値で把握することができます。女性の更年期の進捗(閉経予測)は女性ホルモンのうち、エストロゲン「E2」の減少と、特に卵胞刺激ホルモン「FSH」の上昇により予測することが可能とされ、E2が10～20pg/ml以下、FSHが40mIU/ml以上となった場合、閉経と診断されます。</p> <p>女性は生理不順等により閉経のサインを体感しますが、医療機関を受診しない場合、自己判断の状況で閉経前後の約10年間、さまざまな不調と不安を一人で抱えながら生活することとなります。</p> <p>女性の健診者用に女性ホルモンの卵胞刺激ホルモン「FSH」、男性健診者用に男性ホルモン「テストステロン」について血液検査ができる更年期の健診オプションを検討することについて、見解を伺います。</p>	
	<p>(11)更年期前半とプレ更年期を対象とした「レディースドック」について</p> <p>女性ホルモンのエストロゲン「E2」はコレステロールを原料としており、閉経後「E2」の急激な減少により女性の身体は、がんや生活習慣病など疾病リスクが一気に高まります。</p> <p>健診センターの「レディースドック」は現在、閉経後の方にオススメとなっております。閉経前からの心身の不調について、更年期なのか、その他の疾病なのか気軽に検査できる、更年期前半(閉経前)の40代後半、プレ更年期30代後半～40代前半を対象とした更年期対応の「レディースドック」を検討いただきたいと考え、見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(12)市職員の更年期症状・障害への理解の促進について</p> <p>連合東京は、働く女性の健康問題に着目し、女性が離職することなく働き続けられる環境整備を目的に、令和4年4月実施した「生理休暇と更年期障害に関するアンケート調査」の結果を5月に公表しました。</p> <p>市役所では多くの更年期世代の一般職・会計年度任用の職員が働いており、更年期世代の健康課題や休暇取得の理解促進が、ひいては市民サービスの向上につながることを考えます。管理職や係長職等を対象として更年期に関する理解促進を進めることについて見解を伺います。</p>	
2	<p>市広報のアプリ配信について</p> <p>市広報は市 HP 掲載や全戸配布により、市内全世帯へ配布されているところではありますが、アプリ配信が加わることにより、スマートフォンやタブレットで市民がいつでも市行政情報を確認することができ、また最新号の即時通知や記事のスクラップ、紙媒体に馴染みの薄い若い世代の市行政情報に接する機会の向上など、アプリをダウンロードした市民個人に個別最適化した情報が提供できる等のメリットがあるとされています。</p> <p>電子広報紙配信プラットフォームを活用した自治体広報のアプリ配信の利用が進んでおり、多摩地域 26 市中 13 市で導入が開始されているとのことです。</p> <p>市広報等の広報媒体の一つとして市広報のアプリ配信について、見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p data-bbox="310 271 1246 376">コミュニケーション促進として「たき火」を囲んでの語ら いの場の創出について</p> <p data-bbox="310 405 1246 629">コロナ禍と相まったのアウトドアブームにより、たき火に関心 を持っている方が増えております。稲城市の魅力ある環境を 活かし、市民が家族・友人等とたき火を通じてコミュニケーション を深める機会の創出について伺います。</p> <p data-bbox="310 712 1246 817">(1)令和3年のたき火による火災の発生状況について伺いま す。</p> <p data-bbox="310 900 1246 1005">(2)市が禁止から除外している野外焼却(野焼き)について 伺います。</p> <p data-bbox="310 1088 1246 1256">(3)バーベキュー利用できる公園(稲城北緑地公園・若葉台 公園のピクニック広場)における、たき火等の火の使用方法や 利用時間等について伺います。</p> <p data-bbox="310 1339 1246 1444">(4)たき火を囲んだオープンエアな会議「寄合処いなぎ(仮 称)」について</p> <p data-bbox="310 1473 1246 1816">日野市では民間企業の協力により令和4年3月、夕方から 夜間の3時間、日野市の立地や環境を生かした新たな様 式の居場所を屋外につくり、人とまちの新しいつながりを生み 出す実証実験「寄合処ひの」を実施。たき火を囲んで企画会 議やアイデア創出の打合せを行い、コロナ禍の中で集まること に対して新たなニーズが得られとのこと。</p> <p data-bbox="310 1845 1246 2063">オフィスと自宅との程よい距離感にある稲城市において、 with コロナ・after コロナの市民のコミュニケーションの促進機 会の創出として、稲城市の環境を活かした同様な取り組みが できないか考え、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p data-bbox="310 331 1238 432">(5) ふれあいの森を活用した「たき火一般開放」「たき火教室」について</p> <p data-bbox="310 459 1238 622">炎・火のある暮らしは人間の営みの原点であり、ふれあいの森での野外炊飯やキャンプファイヤーは市民、特に子ども達にとって貴重な体験の場です。</p> <p data-bbox="310 649 1238 813">炎と向き合ことにより、心が解きほぐされ、穏やかなひとときを過ごすことができ、炎に照らし出された家族や友人との語らいは、さらに深いコミュニケーションを図ることができると思います。</p> <p data-bbox="310 840 1238 1126">ふれあいの森の一般開放は 16 時までとなっています。秋・春の夕闇、with コロナ・after コロナの社会において青少年同士やその家族間とのコミュニケーションをより一層図る機会として、ふれあいの森を活用した「たき火一般開放」「たき火教室」について伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
13	市民クラブ	村上洋子

項目番号	質問要旨	摘要
1.	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進と合理的配慮について	
	<p>国連「障害者の権利に関する条約」の精神に則り、国内においてはインクルーシブ教育システムの基本的な考え方が平成 23 年「障害者基本法第 16 条」に明記されました。</p> <p>また、中央教育審議会初等中等教育分科会はインクルーシブ教育の基本的な考え方として、共生社会の実現に向けて、インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である、として「特別支援教育の推進」と学校教育の場における「合理的配慮」を学校設置者に求めています。</p> <p>同時に、平成 25 年の学校教育法施行令改正では小中学校への就学について「本人・保護者の意向を可能な限り尊重する」と改められました。</p> <p>令和 4 年第 5 回教育委員会定例会において、第 1 号請願「若葉台小学校への特別支援学級設置による「合理的配慮の提供」に係る請願」が審議されましたが、これに関連して、障害のある児童生徒の就学先の決定方法や合理的配慮の考え方について質問します。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(1) 就学支援委員会で児童生徒の就学先を判定することのようですが、どのような方たちが判断するのか伺います。</p> <p>(2) 市内には小学校 4 校、中学校2校に特別支援学級が設置されていますが、自分が住んでいる地域の学校に特別支援学級の設置がない場合、どこの学校に通うのか、その決定方法について伺います。</p> <p>(3) 稲城市では、障害のある児童生徒に対してどのような合理的配慮を提供しているのか伺います。</p> <p>(4) 稲城市の特別支援教育における現状での課題と今後の対応について伺います。</p>	
2.	<p><b>プラスチック廃棄物の再資源化について</b></p>	
	<p>令和3年6月のプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の制定により、一般廃棄物の収集・処理を担う市町村については、プラスチック廃棄物の分別収集、容器包装プラスチック・製品プラスチックを一括収集することが努力義務となりました。</p> <p>再資源化の最大の目的はゴミ全体の排出を減らし、中でもプラスチック製品の大量生産・大量廃棄から生ずる自然や人への悪影響を改善することにあると考えます。</p> <p>プラスチック製品の再資源化の最も効果的な循環の仕組みを創ることは、CO2 削減や限りある資源の使用を抑制し持続可能な地球のために不可欠です。</p> <p>また、プラスチック製品の使用を最小限に抑え生産そのものを抑制すること、最適な処理方法のルールに従うことによって、自然への負荷、人への負荷を最小にしていくことの必要性の理解と市民の協力が不可欠であると考え、事業の概要について伺います。</p>	

項目 番号	質問要旨	摘要
	<p>(1) 稲城市における現状のゴミの排出量とプラスチックの占める割合について</p> <p>① 過去3年間の1人1日当たりのゴミ量について</p> <p>② 直近での組成分析におけるプラスチックの占める割合について</p> <p>③ 組成分析から推計するプラスチックの年間排出量と再資源化可能なプラスチックの量について</p> <p>④ 現状の市域全体の戸別収集1回にかかる収集・運搬の経費について</p> <p>(2) プラスチック廃棄物の再資源化事業における手法について</p> <p>① 事業概要について</p> <p>② 分別収集の方法と頻度について</p> <p>③ 中間処理の方法と施設整備の考え方について</p> <p>④ 再資源化の方法や種類、LCA(ライフサイクルアセスメント)を加味したCO2削減効果について</p> <p>⑤ 容器包装リサイクルルートを活用した場合での処理費用の自治体とメーカーの処分費用の分担の割合や仕組みについて</p> <p>⑥ 市民への説明・意見聴取、今後の進め方について</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3.	生活困窮者の支援について	
	<p>新型コロナウイルスの影響で困窮する世帯への緊急経済対策として、「特例貸付」「生活困窮者自立支援金」「住居確保給付金」について、期限が6月末から8月末に間延長され、さらに、自立支援金や住居確保給付金の支給の条件となる求職要件も緩和されました。</p> <p>一方、「特例貸付」については令和4年度11月までに送金されたものについて、令和5年度1月より償還(返済)が始まりますが、困窮が続いている場合には償還免除となる場合があります。</p> <p>これら、支援策の申請期間の延長や償還免除に関する情報を必要な方に届け支援することは大変重要と考え、市の認識と対応について伺います。</p>	
	<p>(1) 特例貸付、住居確保給付金、自立支援金の令和元年、2年、3年度の申請・利用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①緊急小口資金</li> <li>②総合支援資金</li> <li>③自立支援金</li> <li>④住居確保給付金</li> </ul> <p>(2) 申請期間の延長について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①概要について</li> <li>②市民への周知について</li> </ul> <p>(3) 特例貸付の償還免除について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①概要について</li> <li>②対象者へのお知らせについて</li> <li>③市民への周知について</li> </ul>	



通告番号	会 派 名	氏 名
14	日本共産党	田島きく子

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>気候変動・脱炭素化の対策について</p> <p>(1) これまでの市の施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①市が主催・後援する市民への周知・啓発活動の今後の予定についてききます。</li> <li>②公共施設における脱炭素化の進捗状況についてききます。</li> </ul> <p>(2) 今後の施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①省エネ・再エネの市の基本方針をききます。</li> <li>②省エネ・再エネを実施するにあたって、地元企業の積極的な活用が必要だと考えますが、市の認識をききます。</li> <li>③稲城市として「2050年CO<sub>2</sub>排出ゼロ」を表明すべきと考えますが認識をききます。</li> </ul>	
2	<p>プラスチック廃棄物再資源化事業について</p> <p>(1) 指定収集袋の予定価格についてききます。</p> <p>(2) プラスチック廃棄物の収集後の処理過程についてききます。</p>	
3	<p>多摩川の水害対策について</p> <p>(1) 市内における多摩川緊急治水対策プロジェクトの進捗状況についてききます。</p> <p>(2) コロナ禍での避難所運営のポイントについてききます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p>認可保育園の待機児童解消について</p> <p>(1) 4月の地域別・年齢別の待機児の旧基準の内訳をききます。</p> <p>(2) 認可保育園を希望する家庭が入れるように今後とも取り組むべきと考えますが、市の認識をききます。</p>	
5	<p>市民の生命と暮らしを守る新型コロナ対策について</p> <p>(1) ワクチン接種の推進についてききます。</p> <p>(2) 高齢者施設での定期的な検査についてききます。</p> <p>(3) 保育園、幼稚園、学校等での定期的な検査についてききます。</p> <p>(4) 東京都が実施してきた無料のPCR検査を復活・継続すべきと考えますが、市の認識をききます。</p> <p>(5) 早期発見、早期治療で命を守るための、保健所・医療体制の整備についてききます。</p> <p>(6) コロナ禍や物価高で暮らしや営業が厳しい世帯や中小企業への支援についてききます。</p>	
6	<p>生理の貧困について</p> <p>(1) 小中学校で保健室に配置されている生理用品の利用方法について、生徒及び保護者に対しての周知状況についてききます。</p> <p>(2) 現在の生理用品の配置方法について、生徒及び保護者から出されている声についてききます。</p> <p>(3) 近隣で学校のトイレに生理用品を常備している自治体名についてききます。</p>	

通告番号	会派名	氏名
15	起風会	中田 中

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>GIGA スクール構想に関する市の取組みについて</p> <p>コロナ禍をきっかけとした、国のGIGAスクール構想の推進により、稲城市にも1人1台のタブレット端末が導入され、ICT教育環境の整備は劇的に進んだ。</p> <p>この急激な変化に対応していくため、これまでは「まず端末を使ってみる」という状況であったと思うが、今後はこの機会をどのように新しい学び「主体的で対話的で深い学び」の実現につなげていくか、という次のステップに進む段階ではないか、と考える。</p> <p>ある国際調査では、「自分では国や社会を変えられない」と考えている若者の比率が、日本だけが異常に高い、という結果が出ていると聞いた。主体性・当事者意識が低い、というのが、教育の一番の課題であり、その解決には自ら学ぶ意欲、学び続けるスキルを身に付ける必要があると考える。GIGAスクール構想は、単なるICT教育の推進ではなく、日本の未来を支える若者を育てるために必要な取り組みだと捉えている。</p> <p>そのような経緯から、稲城市のGIGAスクール構想への取組みの現状と共に、今後どのように取り組んでいくのか確認させていただくために、質問する。</p>	
	(1) GIGA スクール構想に関する現在の取組み状況について	
	① GIGAスクール構想に関連して導入されたICT機器等(端末、周辺機器、ソフトウェア、ネットワーク等)の現在の状況について確認したい。	
	② GIGAスクール構想に関して導入されたICT機器等の活用状況(授業、家庭学習、校務等)について確認したい。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	③ GIGAスクール構想に関して導入されたICT機器等の運用保守(年度更新、故障・トラブル時のサポート体制等)の状況について確認したい。	
	④ これまでの取組みの成果として、児童生徒や教員の側の変化や改善効果について確認したい。	
	⑤ 校内通信ネットワークのアセスメントが自治体の約1/3で実施されたそうだが、稲城市での状況について確認したい。	
	(2) 新学習指導要領を踏まえた今後の取組みについて	
	① 「主体的な学び」の実現に向けて、「何を問題として捉え、どの道具を、どう使って解決するか」を教師が全て教えるのではなく、児童生徒が自らの判断で選択・決定をしていける指導が今後求められていくと考えるが、市の考えを確認したい。	
	② 「対話的な学び」の実現に向けて、グループワークや発表などの重要性がより高まっている。これらをより効果的に実施するには、クラウドを活用した共同編集や、プレゼンテーションソフトを活用した発表など、ICT活用が必須となると考えるが、市としてどのように活用していくのか、確認したい。	
	③ 「個別最適な学び」の実現に向けて、本人の理解度や興味・意欲に応じて教材を選択できるようにしたり、学習データを活用したり、といった対応が今後求められていくと考えるが、市の考えを確認したい。	
	④ 「校務の効率化」に向けては、校務のデジタル化、校務系データと学習系データの連携などをより推進していく必要があると考えるが、これについて市の考えを確認したい。	
	(3) GIGAスクール構想に関する具体的な取り組みについて	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	① オンライン授業および、リアルとオンラインを併用したハイブリッド型授業への対応状況について確認したい。	
	② ICTを活用した、校内会議のペーパーレス化、オンライン化への対応状況について確認したい。	
	③ 校務のデジタル化やオンライン会議導入には、並行して学校業務のBPR（業務プロセスの見直し）にも取り組む必要があると考えるが、市の考えを確認したい。	
	④ デジタル教科書についてはどのように対応するのか、市の考えを確認したい。	
	⑤ ICT機器の運営支援の在り方について、広域で運営支援センターを設置することについて、市の考えを確認したい。	
	⑥ タブレット端末を家庭へ持ち帰って利用することを推進するのであれば、ゼロトラスト（信頼できる「内側」と信頼できない「外側」を分けずに対策を講じる考え方）を前提とするセキュリティ対策が求められると考えるが、市の考えと対応状況を確認したい。	
	⑦ Googleのツールを使いこなすスキルを証明するため、Google認定教育者というプログラムがあると聞く。教員のICT教育スキル向上のモチベーションを高めたり、ICT教育スキルの可視化にも有効と考えるが、市の考えを確認したい。	
	⑧ 全国学力学習状況調査でも、CBT（コンピューターをベースとしたテスト）での実施が予定されていると聞く。市ではどのように対応していくのか確認したい。	
	(4) GIGAスクール構想に関する今後の展望について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>①「タブレット端末をまず使ってみる」「とにかく使ってみる」という段階から次のステップに進む段階に入っていくと推察するが、市としては今年度の取組みをどのように考えているか確認したい。</p>	
2	<p>地域行事およびイベントの開催について</p>	
	<p>コロナ禍の終息は依然として見通せない状況であるものの感染状況の拡大は微増に留まっており、ウィズコロナを見据えた地域活動の再開を考えていく段階に入りつつあると考える。それに伴い、市内においても地域行事や、市民団体もしくは企業主催のイベントも開催される機会が増えている状況である。</p> <p>市の公共用地を利用して開催される機会も多いことからこれらのイベントの開催について、市がどのように考えているか、確認させていただくため、質問する。</p>	
	<p>(1) 市の公共用地(公園、学校等)を利用してイベントを開催することに対する市の考え方を確認したい。</p>	
	<p>(2) 市の公共用地(公園、学校等)を利用してイベントを開催する場合、市としてどのような基準で利用を許可しているのか確認したい。</p>	

通告番号	会派名	氏名
16	市民クラブ	いそむら あきこ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p><b>誰一人取り残されない不登校支援について</b></p> <p>令和3年第1回定例会にて不登校支援について取り上げ、現状や課題の確認、新たな取り組みについて提案しました。</p> <p>本市でも様々な不登校支援を実施していますが、令和2年度の不登校児童生徒数は、小学校で48人、中学校で80人と年々増加傾向にあります。不登校児童生徒の学びを保障する環境整備、個性に応じた学びの仕組みが必要であると考え、以下について伺います。</p> <p>(1) 不登校児童生徒の学習状況の把握と学習支援の方針づくりには誰がどのように取り組まれているのか伺う。</p> <p>(2) タブレットを活用したオンライン授業への参加状況と取り組みについて伺う。</p> <p>(3) いわゆるフリースクールなど、民間団体・民間施設の情報収集や効果的な情報提供、連携の取り組み状況について伺う。</p> <p>(4) 教育センターの機能強化についての研究状況を伺う。</p> <p>(5) 毎年実施している児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査では、不登校の児童生徒ではなく、教職員の考える要因を集計したものであると認識している。不登校の児童生徒本人に対し、その理由を問うことが不登校の要因把握や対策につながると考えるが認識を伺う。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p data-bbox="294 273 964 318"><b>中学校の校則のあり方について</b></p> <p data-bbox="294 385 1230 705">全国的にいわゆる「ブラック校則」が問題になっていることなどを背景に、昨年、文部科学省から「校則の見直し等に関する取り組み事例について」全国の教育委員会に通知が出されました。また、今年3月に校則の見直しを進める文部科学省「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」では、「生徒指導提要」の改訂試案を公開しました。</p> <p data-bbox="294 721 1230 952">日本が批准している国連子どもの権利条約は、子どもを「権利の主体」と位置づけ、意見を表明する権利を認めています。子どもの人権を尊重し、学校のルールづくりに主体的に関わる取り組みが必要であると考え、以下について伺います。</p> <p data-bbox="305 1008 1230 1579"> (1) 昨年、文部科学省から「校則の見直し等に関する取り組み事例について」の通知が出されたが、本通知を受け各校においてどのような対応をとられたのか伺う。  (2) 校則の違反者に対して、各校においてどのような指導が行われているのか伺う。  (3) 校則改定の手続きの明文化や各校のホームページにて、校則を公開する取り組みが必要であると考えが認識を伺う。  (4) 稲城市教育委員会において、校則の見直しに関するガイドラインの策定が必要であると考えが認識を伺う。 </p>	



項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p data-bbox="294 275 969 320"><b>児童館のよりよい利用について</b></p> <p data-bbox="294 387 1235 667">子どもたちや子育て家庭を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、子どもの居場所づくりや子育て家庭への支援、親子の交流の場、放課後の児童の健全育成など、地域の拠点として児童館の役割はますます重要になると考えます。児童館のよりよい利用を求め、以下について伺います。</p> <p data-bbox="310 723 1235 1149">           (1) 児童館の役割と現状の課題について認識を伺う。            (2) 児童館の民営化の方針と改めてメリットについて伺う。            (3) 児童館職員の役割について伺う。            (4) 児童館の昼食スペースの提供について伺う。            (5) 小学生で、自宅が遠いため一旦家に帰ると来館が困難な場合や保護者が不在の場合等、登録制で学校からの直接来館ができないかと考えるが見解を伺う。         </p>	
4	<p data-bbox="294 1283 961 1328"><b>里親制度の普及・啓発について</b></p> <p data-bbox="294 1395 1235 1675">子どもの権利条約では、すべての子どもは「家庭環境の下で、幸福、愛情及び理解のある雰囲気の中で成長」する権利があるとされています。しかし、日本では、先進諸国の中でも、施設に入る子どもの割合が圧倒的に多く、里親への委託率が令和元年で21.5%と極めて低い状況です。</p> <p data-bbox="294 1686 1235 1910">里親制度は東京都が主体となり、本市は多摩児童相談所が所管となっていますが、子どもたちが地域を離れることなく、地域の中で見守ることができるよう、本市においてもさらなる里親制度の普及啓発が必要と考え、以下について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
5	<p>(1) 里親の現状と課題について</p> <p>①過去5年間の市内の養育家庭登録している家庭数及び養育家庭を受けている児童数について伺う。</p> <p>②里親に対する認識と課題について伺う。</p> <p>(2) 普及啓発の取り組みについて</p> <p>①里親登録を増やすための方策について伺う。</p> <p>②今後の取り組みについて伺う。</p> <p><b>5 生理の貧困対策について</b></p> <p>今年の2月に厚生労働省が実施した「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」の結果によると、生理用品の購入・入手に苦勞したことが「よくある」「ときどきある」の回答者は8.1%との報告でありました。</p> <p>生理の貧困対策は一時的な支援ではなく、継続的な支援が必要であると考え、以下について伺います。</p> <p>(1) 昨年、緊急的な支援として生理用品の配布を実施していたが、配布実績を伺う。</p> <p>(2) 継続的に生理用品の配布ができるよう民間との連携が効果的であると考え、認識を伺う。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
17	改革稲城の会	榎本 久春

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	地域包括支援センターの体制強化について	
	<p>地域包括支援センターは、介護・医療・保健・福祉などの側面から高齢者を支える総合相談窓口であり、保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーの3職種等が、それぞれの専門性を活かし連携しながら、分担して業務を行っております。高齢者が住み慣れた地域で生活できるように介護サービスや介護予防サービス、保健福祉サービス、日常生活支援などの相談に応じており、介護保険の申請窓口も担っています。多様な高齢者の生活を支えており、多忙な業務を担っています。そこで、稲城市介護保険事業計画（第8期）の地域包括支援センターの体制強化について伺います。</p>	
	（1）地域包括支援センターの現状について伺います。	
	（2）稲城市介護保険事業計画（第8期）の地域包括支援センターの体制強化については、取り組みの目指すべき姿を目標として掲げています。	
	①閉じこもりがちの高齢者の把握状況について伺います。	
	②市内の医療・介護の関係機関以外との連携について伺います。	
	③ケアマネジャーに自立支援や介護予防、重度化防止の視点の必要性や可能性を示すとありますが、具体的な取り組みについて伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(3) 地域包括支援センターの体制強化の今後の取り組みについて伺います。	
2	上谷戸緑地体験学習館の駐車場の利用方法について	
	<p>上谷戸緑地体験学習館では、タケノコ堀りや畑で育った野菜の収穫体験をはじめ、鯉のぼりの掲揚、五月人形展や雛人形展など1年を通して様々な行事を行っています。また、施設を管理する坂浜自治会を中心とした水車の会の方々の努力もあり、地域の方々に気持ちよく利用されてきております。昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため様々な行事が中止となっておりますが、今年度は、規模を縮小するなど、感染症対策を取りながらの開催となっております。ホタルの会が中心となり、上谷戸川のホタル観賞のホタルの夕べも開催の周知は行わず、規模を縮小して近隣住民に配慮した形での開催となっております。しかし、行事開催時には、夜間の大きな話し声や交通ルールを守らないような方も見られるとの声が寄せられています。駐車場の利用方法について伺います。</p>	
	(1) 上谷戸緑地体験学習館の駐車場利用の現状について伺います。	
	(2) トラブルや苦情など問い合わせについて伺います。	
	(3) 駐車場利用について、これまでの取り組みを伺います。	
	(4) 駐車場の今後の利用方法について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	更なる火災予防で市民が安心できる防災対策について	
	<p>大規模な火災については、糸魚川で起きた火災が記憶に残っているかと思えます。コンロの消し忘れから発生した火災は、折柄の強風による飛び火で147棟、約40,000㎡が損傷し、363世帯、744人に避難勧告が出されました。死者は発生しませんでした。負傷者17名の人的な被害に加え、創業350年を超える酒蔵や多くの著名人が宿泊されたと知られる旅館などを、多くの財産を焼失する大惨事となりました。</p> <p>この様な大惨事を招かないためにも予防活動は、大変重要な活動であります。稲城市では、自販機への放火など、火災発生原因も様変わりしてきています。気象状況の変化や社会情勢の変動による新たな火災発生が起きている中で、更なる火災予防への取り組みも必要かと考えます。</p>	
	(1) 市の火災予防の現状について伺います。	
	(2) 過去5年間の火災発生件数と主な原因について伺います。	
	(3) 清水谷戸や城山公園などを含む市内における林野火災への予防と対応について伺います。	

通告番号	会派名	氏名
18	起風会	鈴木 誠

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p><b>防災に関する稲城市の取り組みについて</b></p> <p>(1) 若手消防団員に対する準中型以上の免許取得支援について</p> <p>① 昨年令和3年第2回定例会でも取り上げた本件、その後の調査状況について伺う。</p> <p>② 車両総重量3.5トン未満の車両に変更することについての検討はどのようにされたか伺う。</p> <p>③ 普通免許を有していなくても最初から準中型免許を取得することが可能であることの周知はどうしているか、伺う。</p> <p>④ ここ2～3年、全国各地の市町村においても消防団員準中型自動車運転免許資格取得費補助金等の施策が数多く実施され始めている。単独消防である稲城市としても早急な対応方針を決めていくべきと考えるが、市の認識を伺う。</p>	
2	<p><b>『歯』の健康寿命増進について</b></p> <p>歯の健康寿命はそのまま健康寿命に直結すると言われる。最近では歯周病がアルツハイマー型認知症の原因になるとの研究がされ、また、ある統計では歯のメンテナンス（予防）をしている人は生涯に渡る医療費が大きく違うことも証明されており、これは国民健康保険の節減にも期待されているが、</p> <p>(1) 稲城市にて実施している歯科保健施策について</p> <p>① 第三次稲城市保健福祉総合計画『課題7・歯や口腔の健康を支える体制の整備』における、健診等の取り組みがどのようにされてきているか伺う。</p> <p>② 虫歯になってからではなく、日頃からのかかりつけ歯科医をもつことが重要であるが、これまでの推進状況について伺う。</p>	

	<p>(2) 8020運動への参画について</p> <p>①近隣の日野市含め、全国で200近い自治体が歯科保健条例等を設置して本腰を入れて取り組んでいるが、稲城市としての認識を伺う。</p> <p>②歯科口腔保健の推進に関する法律の第三条には『地方公共団体は、基本理念にのっとり、歯科口腔保健の推進に関する施策に関し、国との連携を図りつつ、その地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。』とあるが、市としての施策策定、実施責務がどのように果たされてきているか改めて伺う。</p>	
3	<p><b>自治会支援施策の検討状況について</b></p> <p>令和3年第2回定例会で、自治会を支援・応援する条例を制定する取り組みが有効である旨が、特定所管事務調査の報告として上げられ、また各自治会からの想いを集約する契機ともなったが、</p> <p>(1) 自治会連合会からの意見対応について</p> <p>①転入時のパンフレット配布や、不動産業者らとの転入時説明の提携などその後変化はあるか伺う。</p> <p>②自治会に対するさらなる財政的支援が求められていたが、こちらも何か変化はあるか伺う。</p> <p>③市における行政と自治会の役割分担について、改めて認識を伺う。</p> <p>(2) 条例の設置に向けた取り組みについて</p> <p>①予算措置をする上でも、その背景となる条例の設置が望まれるが、稲城市として今後どのような取り組みをされていくおつもりか伺う。</p>	